

# インタ



笑福亭 たま

「落語をいっぺん生で聞いてみたいと思っていた」「落語って、どこで聞けるかわからない」という言葉はよく聞きます。ある意味、落語に触れたことの無い人の素朴な疑問ですが…、一言言わせていただくと「アンタら何でもググるくせに…、これは調べへんのかい!」です。今はインターネットで何でも調べられる世の中です。しかしわれわれは、調べる対象が明確な時しか調べられないのです。わかった気になってるものや、そもそも全く知らないものは調べられません。

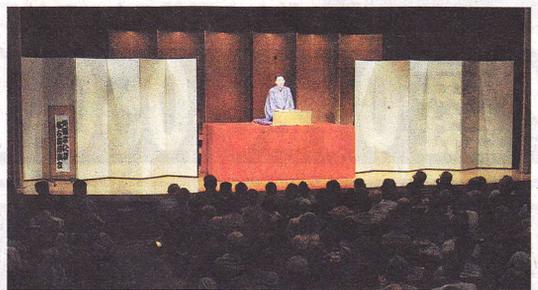
前回「生の落語を体験してほしい」という話を書いたところ、「名古屋には寄席が無

## ■ 何でもググる時代 ■

いのにどこへいけば良いのか!」と脊髄反射で言うてしまう人が普通に現れます。不思議な話ですが、インターネットで「名古屋 落語」で検索すると、大須演芸場をはじめ多くの落語会が出てきます。でも検索しない人が大半です。もちろん「そこまで興味ない」と言われれば、それまでですが、「ほな、名古屋に寄席がないとかいう意見を言うなや!」と言いたくなります(笑)。私は誰とけんかしてるのでしょうか…。

私が言いたいのは、ネット検索には必ず「自分が確実に知らないで調べよう」という動機が必要であり、われわれはわかった気になっている事(自分の無知はおいて)調べもせずに堂々と発言

## 落語会 検索してみても



筆者も名古屋で落語会開いています

してしまつという事です。

例えば、もし体験した事のない人に「プリンセス天功さんのショーをいっぺん生で見たいですか?」とか「エジプトのピラミッドを一度見たいですか?」と聞けば、大概見てみたいと言うはずですが、でもその人たちのうち、実際にプリンセス天功の公演やエジプト旅行を検索した事がある人はほぼ皆無です。検索するよつな人は、ほぼ既に見に行ってるからです。世間の多くの人は「落語もできたらいっぺんは生で見に行きたい」と思ってくれているかもしれない。でも「検索してまで見に行きたいか」というと、そういう状況にならないと動かないのが普通の人間です。それは友達に誘われたとか、近所で行つてるとか、何かの情報が目に付いたとか…キッカケが必要です。ちなみに、そのキッカケをつくる方法をネット検索してみました。まあこれもキッカケです。今日はどうりあえず「名古屋 笑福亭たま」で検索してみてください。

(落語家 次回掲載は五月三十日)